

ながおか土砂災害Dメールの取組について

背景

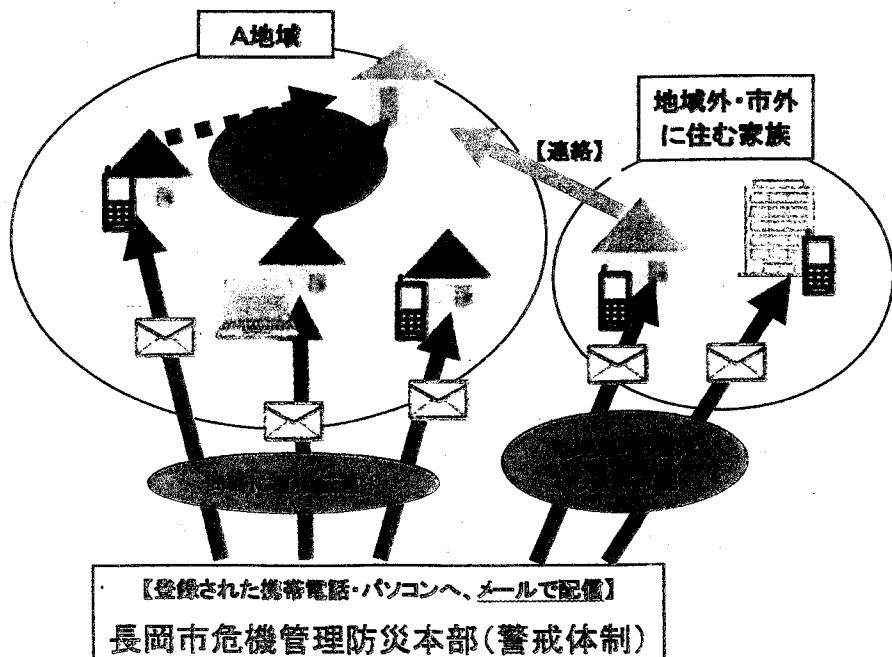
土砂災害は、他の災害と比べて発生の予見が難しく、また対象地域が限定的である。長岡市は、これまでの全市的な情報伝達に加えて、特定の地域に、一斉に直接メール配信する情報伝達として、新たに「ながおか土砂災害Dメール」を始める。

事業の流れ

- 地域の中の、土砂災害危険箇所を再認識してもらう。
- 市から発信される情報の意味を理解してもらう。
- 地域の知恵を活かした自助・共助の力を発揮してもらう。

以上 3 項目の浸透を目的として、該当地区への説明会を実施しており、平成 26 年度の梅雨時期までに全市的な運用を開始する。

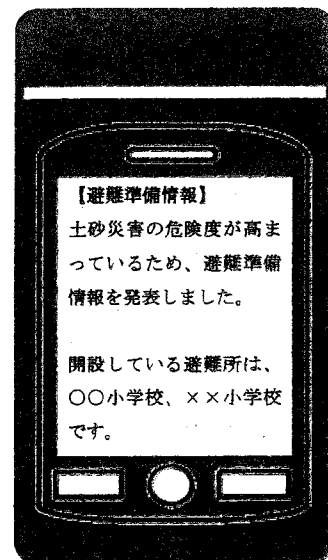
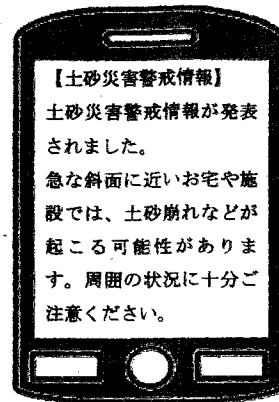
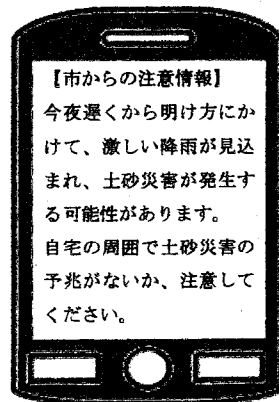
配信イメージ



メールの配信内容(例)とその意図

注意を呼びかける情報

気象に関する情報



長岡市が意図するところ

- 土砂災害は、気象台と新潟県が 5km 四方 (長岡市内 53 メッシュ) の範囲で危険度を判断しており、その情報を市として該当する地域に迅速に伝達する。
- 災害発生の危険性が高い地域だけに配信するので、深夜の豪雨に備えた夕方時点での早めの注意喚起ができる。
- 登録型のメール配信サービスなので、登録者への一斉伝達が可能であり、地域外で受信した家族からの支援も期待できる。

受信後の行動 (情報と地域の知恵を最大限に活かす)

- 気象情報に注意し隣近所で声を掛け合って、地域で災害に備える。
- 自宅 2 階の山側と反対の部屋に移動するなど、周囲の状況を踏まえた判断をする。
- 昨年の豪雨時にも有効だったように、市の指定避難所にこだわらず、地域内の公民館や寺院に避難するなど、臨機応変な避難行動をとる。